

校長室だより

No. 12

平成29年6月30日(金)

# 強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

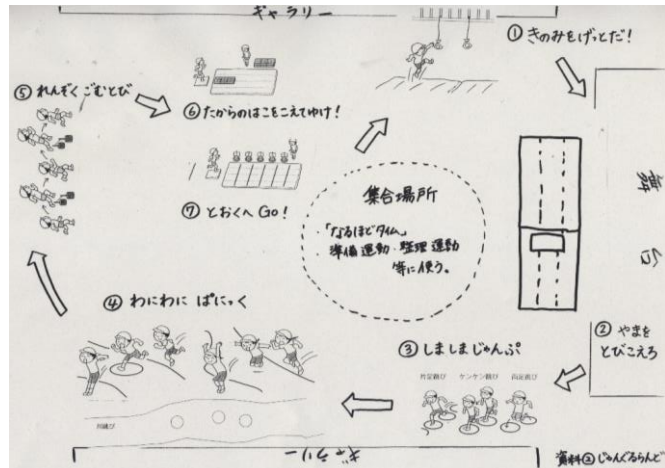
かとう よし かず  
加藤 嘉一

## 運動能力の向上をめざして ー体育の授業研究に臨むー

ここ数年本校の体力テストの結果を分析すると、跳躍力にかかわる種目（立ち幅跳びなど）について、全国平均よりやや低い傾向にありました。この分析からジャンプ力の挑戦コーナーを設置するなど、環境づくりに取り組んできました。

そして、今回は6月22日（木）に市内の体育の授業を指導する先生に来てもらい、授業についての研究です。研究授業を公開してくれたのが1年2組の近藤佳奈先生です。本校の傾向を考慮し、体育館で跳躍力にかかわる授業を考えてくれました。単元名は「跳の運動遊び ～とんでみよう 1の2じゃんぐるらんど～」(7時間完了)です。

体育館には、跳び箱・マットを利用したコーナーや、片足跳びコーナー等、1年生が挑戦したくなるサーキットコースが作られていました。(右図)このコースでの練習が始まると全員が意気揚々と走っていました。これは1年1組の土井先生と、一緒に研究しています。汗びっしょり



になって挑戦している姿から、場の工夫が成功していることが読み取れました。

今回授業の中心に取り上げたのが、助走をつけ踏み切り板をけり、いかに遠くへ跳ぶかを工夫する種目。これは、高学年の幅跳びにつながる運動です。子供たちは、保育園や幼稚園の跳び箱で踏み切り板を使った経験があり、両足で踏み切る感覚が体に染み付いています。この子たちを遠くへ跳べるようにするために、はじめから片足で跳ぶ練習を指示することも一つの方法ですが、佳奈先生はそうはしませんでした。事前に遠くへ跳ぶためのコツを各自で考えさせ、全員と対話していた佳奈先生は、一人一人の考えを座席表に書き頭に入れていました。そこで全員で話し合いです。佳奈先生は、「片足で跳ぶと遠くへ跳べる」という考えと「両足の方がいい」という考えが登場したところで、試しの練習をさせました。するとその後「ぼくは両足で跳んでいたけど、Aさんを見てたら5点まで跳べていて、真似したら5点まで跳べた」「片足で跳ぶと体が軽く感じます」といった発言が生まれていました。遠くへ跳ぶ子の姿を観察（考え）し、コツに

ついて話し合い、自分で試し、その感覚を実感する学びが成功していました。この子たちは、今後ほかの運動でもこの学び方を生かしていくと考えます。

その後指導して下さった先生から、こんなお話をいただきました。「反復練習をすれば、ある運動能力は高めることができます。プロのスポーツ選手の練習や部活動がそれです。しかし、体育の授業では意図のある活動を提供し、真剣になる場面を作ることが大切です」。一つの単元（運動）を1～10数時間で学習していく体育の授業では、長い時間を



【1年2組体育研究授業】

かける部活動と同じように技能を伸ばすことは難しいです。授業では、頭と体を使うことと感覚を大切にする活動を大切にし、生活でも運動の楽しさを求めていく子供を育てます。もう一つ印象に残った言葉がありました。「今、小学校の課題は運動能力の二極化です」これは、わたしも数年前にある市の結果を分析し、同じ報告をしたことがあります。二極化した集団の授業が一番難しいです。

☆：本年度新規  
の取り組み

### 本年度の重点努力目標（その3）

#### イ うんどうがだいすきな子を育てる

- 種目・教材の開発、準備運動の方法や指導方法の工夫に努め、運動に意欲的に取り組む態度とバランスのよい体力を育成する。

- 体力テストの分析と対策（現職研修）
- 授業研究（授業）
- 体育祭学年演技・競技の新たな形の研究
- 子供全員参加の体育祭テーマづくり

- 集会や長い休憩時間に、運動に親しむことができる遊びや道具の紹介、環境づくりに努める。

- 体育・保健委員会による活動（休み時間を利用した委員会活動）
- 遊具の整備（環境整備）
- 集会の時間の確保（毎週木曜日実施）
- ☆チャレンジコーナーの新設（体力テスト関連種目コーナー）

- 竹馬、一輪車、縄跳びなどの運動を取り入れ、成果を自覚する場をもつ。

- ☆竹馬、一輪車特技披露の場作り（体育祭高学年演技）
- 竹馬、一輪車の整備（教具）
- かけあしカードの工夫（体育委員会）
- 縄跳び検定・チャンピオンの工夫（体育委員会）